



北海道の「木材生産量」と「森林伐採面積」に 森林事業年表を重ねてみました。

林政統（農林省山林局、宮内省帝室林野局、内務省北海道庁の所有林を統合）
国有林野事業特別会計法制定

復興用材、朝鮮戦争特需、高度経済成長に伴う建築用材等の膨大な木材需要が発生

洞爺丸台風（北海道全体で、二七〇〇万㎡の被害、
特に層雲峡地区の被害が甚大で当時の50年分の伐採量以上の被害）

国有林生産力増強計画：成長の遅い低位な天然林を成長の良い人工林に転換

木材増産計画：造林技術の集約化及び向上による成長量の増大の見込みを織り込んでさらなる増伐。この頃、全国紙の新聞社説でも「国有林伐採制限の緩和を」「国有林の増伐」という論調。色／燃料革命で薪炭林の需要が減って、広葉樹の里山の価値が下がる
木材輸入完全自由化

昭和40年代以降（国有林）木材価格の低迷、自然保護の要請による収穫量の減少

国有林野における新たな森林施業
「皆伐施業」における伐区の縮小分散及び保護樹帯の拡充、保護林の増設
国有林 134 億円の赤字

（国有林）財政投融资資金からの借り入れ（人件費の資材費の高騰、伐採跡地への植林の増加、造林に必要な経費が自らの収入によつて支弁できず）

知床国有林の天然林伐採問題

地球サミット（国連環境開発会議）「森林原則声明」などが採択
日本が「生物多様性条約」に署名

国有林野事業の債務を一般会計へ繰り入れ、経営合理化（3.8兆円の赤字）
この頃、国有林・道有林が「天然林を伐採しない」方針を打ち出す

この頃、日本の木材自給率は18.8%と過去最低になる

ロシア針葉樹輸出関税引き上げ
森林・林業再生プラン「10年後（その後15年に延長）の木材自給率50%以上を目標」
国有林野事業一般会計化

（参考）
日本の木材需要量 / 8,185万㎡（丸太換算、2017）
日本の木材供給量 / 2,966万㎡（丸太換算、2017）
日本の木材自給率 / 36.2%（用材では31.6%、2017）
（平成29年度林業白書より）
日本の針葉樹人工林の蓄積量 / 約30億㎡（2017）
（森林林業統計要覧 2017より）
北海道の針葉樹人工林の蓄積量 / 約2.5億㎡（2017）
（平成29年度北海道林業統計より）

白樺は、北国北海道の持続可能な豊かな森の恵み。
そんな地域の資源を再評価し、森林と生活者を結び、
産業として文化として根付くことを目指すプロジェクトです。